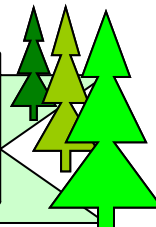


街路樹



折り返し地点



きめ細やかな個に応じた指導に向けて ～特別支援教育～

夏休み直後の宿題の確認や作品出品事務、また台風による休校措置など、慌ただしく新学期が始まり、日々忙しさを感じられていることと思います。しかし、先生方もご承知のとおり、2学期は、校内や学校行事をとおして児童生徒たちの心が大きく成長する時期であり、また学習面においても、当該学年における重要な指導内容が多く、先生方の指導力が強く求められる時期とも言えます。そこで、まず何をすべきかと考えると、やはり目の前の子どもたちを見つめ、適切に見取ることが改めて必要ではないでしょうか。

それでは、具体的な方法と場面はというと、まずは朝の時間や休み時間、授業への取組等についての日常観察、授業中の発表や話し合い活動での様子、ノート、ワークシート、提出物等の点検、他にも様々なことがあげられます。また、評価テストや定着確認シート等の客観的な数値の分析と活用も実に大切です。

さらに、もう一つ大切な視点として、同僚の先生方からの見取りというものがあります。担任の思い込みにより、案外見落とししていたり、気付いていなかったりすることもあるのです。そのようなときに他の先生方からいただく気づきや意見等は大変貴重であり、一方向からだけでなく、複数の方向から児童生徒の理解を深めることができます。

そして、「このような力を身に付けさせれば」「ここを補えば」「学年あるいは教科と一緒に指導をしてみれば」といった、課題に対するアプローチの仕方が見えてくると思うのです。

このようなことは、今更改めて申し上げるようなことではないかもしれませんが、ですが、新年度が始まって半年、いよいよ学年の後半に入りました。当該学年における基礎的・基本的な知識や技能はもちろんのこと、学習の意欲や課題に対する取組方をも含めた「確かな学力」を児童生徒が身に付けられるよう、改めて目の前にいる子どもたちを見つめ直し、一人ひとりを大切にしたい指導で先生方の手腕を発揮していただければと思います。そして、総合教育センターの講座が先生方の一助となれば幸いです。



人は様々な能力をもっています。そして、多かれ少なかれ誰にでもアンバランスさがあるのです。無意識のうちに、または数々の経験を経て、強い能力を生かし、弱い能力を補うことで、自分なりの「生きる力」を身に付けているのです。

福島県では少人数教育を行うことで、きめ細やかな個に応じた指導、望ましい集団作りを目指しています。個に応じた指導をする上で欠かせないのが、個々の認知スタイルをアセスメント（人物の適性を客観的に事前評価）することであると考えます。

これは、以前から特別支援教育では欠かせない手立てであり、困り感をもっている子どもたちに関わる方々が、その子たちの認知特性や行動特性に気付いてあげられるかどうかで大きく変わってきます。例えば、総合教育センターでの教育相談を行う子どもたちの多くは、認知スタイルのアンバランスさが学習や集団生活での困り感に繋がっています。仮説を立てて一つずつ検証し、その子の特性に気付いてあげることで、子どもたちへのきめ細やかな支援が可能になってきます。

情報の入力方法が聴覚優位なのか、視覚優位なのか、継次処理、同時処理のどちらが得意なのか、記憶力・ワーキングメモリ（頭の中のメモ帳）がどれくらいあるのかなど、複雑に絡み合う部分もあります。しかし、先生方が行っている不断の細やかな支援に、認知スタイル・特性の視点を組み合わせることでより深いアセスメントとなり、きめ細やかな個に応じた指導となるでしょう。



研修講座のお知らせ&研修感想

〈授業力向上講座Ⅲ(応用)〉(小学校国語・小学校算数)

11月22日(火) 会場 平一小
筑波大学附属小学校 二瓶弘行先生による国語の飛び込み授業

11月28日(月) 会場 御厩小
筑波大学附属小学校 大野 桂先生による算数の飛び込み授業

※ その他、多数研修がありますので、
どうぞご参加ください。



研修講座の感想

〈放射線に関する教育研修〉

8/19(金)

- ☆ 放射線教育がなぜ必要かという話から、何をどう教えるかまで短時間で分かりやすく学べた。
- ☆ 講義の中で、「いわき市の教員全員が本研修を受講してほしい」とあったが、福島県の放射線教育として必修にしてもよいと思えるくらいの研修であった。
- ☆ ワークショップは、子どもの心を知るには大変すばらしいものだった。